

令和5年度
自己点検評価書
[自己点検・評価委員会]

令和6（2024）年9月
大阪人間科学大学

目 次

基準	タイトル	頁
基準Ⅰ	アドミッション・ポリシーにおける評価・点検（入試委員会）	1
基準Ⅱ-1	カリキュラム・ポリシーにおける評価・点検（教務委員会）	2
基準Ⅱ-2	カリキュラム・ポリシーにおける評価・点検（FD・SD 委員会）	4
基準Ⅱ-3	カリキュラム・ポリシーにおける評価・点検（事務局）	6
基準Ⅲ-1	ディプロマ・ポリシーにおける評価・点検（入試委員会）	7
基準Ⅲ-2	ディプロマ・ポリシーにおける評価・点検（教務委員会）	8
基準Ⅲ-3	ディプロマ・ポリシーにおける評価・点検（キャリア開発委員会）	9

基準 I	アドミッション・ポリシーにおける評価・点検（入試委員会）
------	------------------------------

◆評価基準

- ① アドミッション・ポリシーが明文化され、公表されている
- ② アドミッション・ポリシーに基づいた入学者選抜が実施されている
- ③ 選考要項が整備され、公表されている

◆自己点検評価（該当数字を○で囲む）

- ① 基準を全て満たしている
- 2：基準を概ね満たしている
- 3：基準を満たしていない

◆自己点検評価結果の理由

- ①アドミッション・ポリシー（以下 AP）については、「大学案内」「ホームページ」「学生募集要項」等において「求める学生像」「高等学校で身に付けておくことが望ましい素養と履修すべき科目」「各学科・専攻の求める学生像」を掲載し周知している。
- ②入学者選抜においても AP に合致する学生を受入れるための選抜方法を設定している。面接試験を課す入試では AP に関連した内容の質問を行い、AP を理解できているかを確認している。
- ③選考要項については、すべての入試種別について学生募集要項として冊子等にまとめ公表している。

◆自己点検評価結果のエビデンス（※以下は例示項目）

1. 大学案内
2. 大学ホームページ
3. 学生募集要項

◆自己点検評価結果における課題と対応

全ての入試種別において、出願資格・条件にアドミッション・ポリシーを十分に理解している者と定め周知し出願させている。今後も引き続き、入学者選抜において各入試種別毎の特長を踏まえた、多面的、総合的に評価を行い、AP との整合性を確認していく。

基準Ⅱ-1	カリキュラム・ポリシーにおける評価・点検（教務委員会）
-------	-----------------------------

◆評価基準

- ① カリキュラム・ポリシーが明文化され、公表されている
- ② カリキュラム・ポリシーに適している教育が実施されている
- ③ IR 情報を利用した教学マネジメントが実施されている

◆自己点検評価（該当数字を○で囲む）

- ①: 基準を全て満たしている
- 2: 基準を概ね満たしている
- 3: 基準を満たしていない

◆自己点検評価結果の理由

- ①ディプロマ・ポリシーを具現化するために、教育課程編成方針を「カリキュラム・ポリシー」として定め、学生便覧や大学ホームページで公表している。
- ②教育課程は、全学共通の「基礎科目」と、各々の学科の「専門科目」から構成される。基本的には、「基礎科目」で対人援助の専門職業人となるべき基礎を固めた上で、「専門科目」で専門職となるための知識・技術を専門的に学ぶ。また、学科・専攻ごとにナンバリングを行い、学修成果に基づくカリキュラムツリーを作成し、ディプロマ・ポリシーと科目との関連性を可視化することで学修の段階や4年間の学びの体系を示している。また、学生各々が目指す進路に応じた「履修モデル」を明示し、履修登録指導を実施している。なお、「カリキュラムマップ」「カリキュラムツリー」「履修モデル」はいずれも「ユニバーサルパスポート」及び本学 WEB サイトで学生が随時確認できるように公開している。
令和5年度は、1年次生の全学生が履修する基礎科目の対人援助演習Ⅱにおいて、UNIVERSAL PASSPORT を用いた振り返りシートのデジタル化、スマホ出席システムを導入し、その活用状況を確認の上、授業の特性に応じて新たな機能の追加設定を行う等、ICTを活用した学修環境を段階的に活用できる体制を整備した。
カリキュラム対応としては、令和6年度からの基礎科目の改編に伴い新設される学部横断かつ年次縦断的な「社会と共生Ⅰ」「社会と共生Ⅱ」「社会と共生Ⅲ」について、学生が目標に到達するだけでなく成長を実感できる科目としての教育内容と、「社会と共生Ⅰ」の授業方法及びフィールドについて検討し、実施に向けての準備を進めた。
- ③IR情報の活用については、成績発表時に、年次別・学科別のGPA分布図を公表し、学生個々の学修状況、学科ごとに対比したGPAを教員が把握することで学習指導に役立てられるようにしている。

◆自己点検評価結果のエビデンス（※以下は例示項目）

1. 3学部と各学科・専攻の3ポリシー
2. カリキュラムマップ
3. カリキュラムツリー
4. 履修モデル
5. シラバス

6. 学修ポートフォリオ
7. UNIVERSAL PASSPORT を活用した授業の振り返りについて（マニュアル）
8. UNIVERSAL PASSPORT のスマホ出席導入後の出欠管理について（マニュアル）
9. GPA 分布状況表

◆自己点検評価結果における課題と対応

令和5年度は、1年次生が UNIVERSAL PASSPORT を用いて、デジタル化した振り返りシートの作成、スマホ出席に対応できる能力を養った。今後は、4年間、新入生に継続して活用することで、全学共通のデジタル化した振り返りシートの作成、スマホ出席が活用できる体制を整える。また、対面授業を全学的に実施していく中で、コロナ禍で培った遠隔授業等のノウハウや学内の Wi-Fi 機能を使い、ICT を活用した教育実践に取り組んでいるが、今後は学修成果を担保した上で、多様な形態での授業開講の可能性についても委員会として検討していく必要がある。

基準Ⅱ-2	カリキュラム・ポリシーにおける評価・点検（FD・SD 委員会）
-------	---------------------------------

◆評価基準

- ① カリキュラム・ポリシーが明文化され、公表されている
- ② カリキュラム・ポリシーに適している教員組織となっている
- ③ カリキュラム・ポリシーに適した教育を行うための FD 活動が実施されている

◆自己点検評価（該当数字を○で囲む）

- ①：基準を全て満たしている
- ②：基準を概ね満たしている
- ③：基準を満たしていない

◆自己点検評価結果の理由

① カリキュラム・ポリシーが明文化され、公表されている：
・カリキュラム・ポリシーは、学生便覧及び本学 HP 上に明文化されたものが公表されている。
② カリキュラム・ポリシーに適している教員組織となっている：
・大学設置基準を満たした教員組織となっている。また、本学で取得可能な資格・免許に関する養成課程はすべて学校・養成所指定規則等を満たしており、対人援助の専門職業人を養成することが可能な教員組織となっている。
③ カリキュラム・ポリシーに適した教育を行うための FD 活動が実施されている：
ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づく授業改善をはじめ本学の教育力の向上を目指した FD・SD 活動として、以下の活動を行った。 ・FD・SD 研修会(対面)を2回開催した。第1回は、急速に普及しはじめた生成AIを本学の教育・研究にどのように活用していくのかについて、「生成AIを活用した教育・研究について考える」（講師：本学教授岡田氏）をテーマとして9月に開催した。第2回は、令和6年度から実施するループリックを用いて学修成果を可視化し、入学から卒業まで形成的評価を行いながらディプロマ・ポリシー達成に向けて指導を行っていく教育活動に関する研修を実施した。テーマは「ループリック（プロトタイプ）の運用について」（講師：本学教授岡田氏）とし、3月に開催した。なお、いずれも対象者は全教職員としている。 ・動画教材を用いてのFD・SD研修を2回実施した。第1回は、「カリキュラムマネジメント」と「インスティテューショナル・リサーチ（IR）」をテーマとした動画教材の視聴による研修を8月から9月にかけて実施した。動画教材は、東北大学を代表校とし熊本大学、大阪公立大学、立教大学の計4大学が連携して開発した「大学等における教育FD動画コンテンツ」における「カリキュラムマネジメント」（講師：杉谷 祐美子（青山学院大学 教授））と、「教育改善論 8-1 インスティテューショナル・リサーチ（IR）」（講師：高橋哲也（大阪公立大学 副学長））を用いた。第2回は、次年度シラバス作成のタイミングに合わせて、今年度実施した授業の振り返りを行ってもらい、次年度シラバス作成の参考とすることを目的として、旧関西地区FD連絡協議会が作成した「シリーズ 大学の授業を極める（3）授業設計」を用いて、1月から2月にかけて実施した。なお、いずれも対象者は全教職員としている。 ・ピア・レビュー活動の一環として「授業の相互参観」を実施した。実施方法は、昨年度と同様で、対面での参観と動画記録の視聴というハイブリット形式で実施した。令和5年度においては、社会福祉学科2、視能訓練専攻1、子ども教育学科2、心理学科2、理学療法学科

2、作業療法学科1、言語聴覚学科1、の計11科目が参観可能な授業として提供された。実施期間は令和5年10月2日から令和5年1月29日までとした。

- 令和4年度から、教育評価に関するFD・SD活動として、「学生からの授業評価アンケート」及び担当科目の「成績実態に関するデータ」という、教育評価に関する2つのデータに基づき振り返りを行っており、今年度においてもこれらのデータに基づき、授業改善計画を立案することができた。なお、成績実態に関するデータは全教科目のデータを学内公開としているため、教員は担当する教科目の成績実態を相対化することが可能であり、学修成果データに基づく授業改善を行うことができた。
- その他、定期的に取り組んでいるFD・SD活動としては、下記2点の活動を行った。まず、新任教員を対象とした「オリエンテーション研修会」を4月に開催した。2点目は、シラバス点検活動である。本活動は令和元年度からFD・SD活動の一環として位置づけて取り組んでいるものであり、活動の趣旨は第3者によるシラバス点検を行うことによってより良いシラバス作りを行っていくことではあるが、下記の効果を目指した活動でもある。1つは、他者の作成したシラバスを点検することによって、点検者自身がより良いシラバス作りの観点と方法を学習し、学科・専攻内の教員に対して助言可能な力量を形成すること。もう1つは、学科内の開講科目の内容、方法、到達目標を理解することによって、カリキュラムに対する理解を深め、カリキュラムレベルにおける教育改善に繋げていくことである。
- 本年度における主たる活動は以上であり、学修者本位の教育の確立に向けてのFD・SD活動を実施することができた。

◆自己点検評価結果のエビデンス（※以下は例示項目）

1. 「学生による授業評価アンケート」結果、「成績実態に関するデータ」一覧及びリフレクション結果報告
2. 令和5年度「FD・SD研修会」実施記録(対面2回、動画教材2回)
3. 令和5年度「授業相互参観」実施記録（実施案内及びアンケート結果）
4. 令和5年度「新任教員オリエンテーション」実施記録
5. 令和5年度「シラバス点検」実施記録

◆自己点検評価結果における課題と対応

本年度が新生5カ年計画の最終年度であったため、全教職員を対象として、これまで実施してきたFD・SD活動の効果に関してのアンケート調査を実施した。本調査の結果に基づき検討した結果、次年度以降は主として以下の6点の内容に取り組んでいくことにした。①学生の学修成果データに基づくFD活動を実施していく。②教員のニーズに基づくFD・SD活動については、ICTによる授業改善に関するもの、また、学びのへの動機づけと授業外学習課題に関する内容を中心に取り組んでいく。③これまで実施してきた授業改善を図るためのFD・SD活動の実施方法を改善し、活動内容の精度やレベルを高めていく。④定量的な目標設定を行い、これに基づき評価を行い、PDCAサイクルを回していくこととする。⑤授業評価アンケートをはじめ、データの回収率を上げる。⑥教職協働による教育の質的向上を目指しているため、授業改善等に関する活動にも職員に参加してもらっている。そのため、職員に対してはFD・SD活動の目的を丁寧に説明していく。

基準Ⅱ-3	カリキュラム・ポリシーにおける評価・点検（事務局）
-------	---------------------------

◆評価基準

- ① カリキュラム・ポリシーが明文化され、公表されている
- ② カリキュラム・ポリシーに適している教育設備が整備されている
- ③ カリキュラム・ポリシーに適した教育を行うための教育設備整備計画が実施されている

◆自己点検評価（該当数字を○で囲む）

- ①: 基準を全て満たしている
- 2: 基準を概ね満たしている
- 3: 基準を満たしていない

◆自己点検評価結果の理由

- ①カリキュラム・ポリシー（以下CP）については、各学部・学科ごとに明文化され、学生全員に配付する「学生便覧」や、全てのステークホルダーが閲覧可能な「ホームページ」にも公表している。
- ②教育設備の整備やメンテナンスについては法人本部が一括して管理しているが、事務局においてはCPに適した教育設備や環境が整備されるよう適切に計画を立案し、随時見直しを行っている。特に国家資格対応の学科においては、指定規則やガイドラインに定められた基準を遵守し、教育目標達成のために適切に管理・運営を行っている。
- ③令和5年度は、令和6年度からの人間科学部社会創造学科の設置に向け、正雀学舎5号館2階を改修し、フィールドワーク調査等で収集した写真や映像編集、Webコンテンツ制作、DTP（デスクトップパブリッシング）コンテンツ制作などの技術を修得する「ARIKAラボ」を整備するなど、CPに適した教育を行うために計画的な教育設備の整備を実施している。

◆自己点検評価結果のエビデンス

1. 「2023 学生便覧」

◆自己点検評価結果における課題と対応

新学科設置に対応した教育設備の整備対応を含め、今後も各学科の教育目標達成に向けた教育設備の整備を行うとともに、全学的には平時の授業時においてもWi-FiとICTを活用した授業の充実に向けた取組みを進める。また、国家資格対応の学科においては、今後も指定規則やガイドラインに定められた教育設備を整備し、各種教科目の授業に支障が生じないよう計画的に管理・運営を行う。

基準Ⅲ-1	ディプロマ・ポリシーにおける評価・点検（入試委員会）
-------	----------------------------

◆評価基準

- ① ディプロマ・ポリシーが明文化され、公表されている
- ② ディプロマ・ポリシーに適している入学者選抜が実施されている
- ③ 入学者の追跡調査等により入学者選抜方法の妥当性が確認されている

◆自己点検評価（該当数字を○で囲む）

- ①: 基準を全て満たしている
- 2: 基準を概ね満たしている
- 3: 基準を満たしていない

◆自己点検評価結果の理由

- ①ディプロマ・ポリシー（以下 DP）については、「大学案内」「ホームページ」において明文化し幅広く公表している。
- ②DP に沿った人材を育成するためにカリキュラム・ポリシーが定められ、それに基づきアドミッション・ポリシー（以下 AP）が策定されていることから、入学者選抜においては、入試種別毎の特長を踏まえ多面的、総合的に評価を行い AP との整合性を確認するなど、DP に適した学生を受入れるための選抜方法を設定している。
- ③AP においては高等学校で身に付けておくことが望ましい素養と履修すべき科目も明文化し、そこには DP で定めているコミュニケーション能力やその基礎となる語学力（国語力）を有していることとしている。これらの入学者選抜方法の妥当性を確認するため、入学者の追跡調査を行っている。

◆自己点検評価結果のエビデンス（※以下は例示項目）

1. 入試種別毎の GPA 分布
2. 入試種別毎の単位取得状況
3. 入試種別毎の中退状況

◆自己点検評価結果における課題と対応

入学後の追跡調査によると、2020 年度入学の退学率は 29.42%と 2019 年度入学の 17.30%、2018 年度の 21.86%に比べ高い水準となっている。コロナ禍の影響で人との交流が減ることによる学生生活不適応・修学意欲低下や遠隔授業による学習が合っていなかったことなどが考えられる。2020 年度入学の入試種別毎の卒業率は、センター試験利用入試・共通テスト利用入試、AO 入試・総合型選抜で低く、中退者数、留年者数は共に学校推薦型選抜指定校で高い傾向が認められたため、入試種別毎に DP に適した入学者選抜方法の妥当性の確認を実施していく。

基準Ⅲ-2	ディプロマ・ポリシーにおける評価・点検（教務委員会）
-------	----------------------------

◆評価基準

- ① ディプロマ・ポリシーが明文化され、公表されている
- ② ディプロマ・ポリシーに適している教育が実施されている
- ③ IR 情報を利用した教学マネジメントが実施されている

◆自己点検評価（該当数字を○で囲む）

- ① 基準を全て満たしている
- 2：基準を概ね満たしている
- 3：基準を満たしていない

◆自己点検評価結果の理由

- ①教育理念である「自立と共生の心を培う人間教育」のもと「人間性豊かな幅広い知識を持った専門職業人」を育成することを教育目標としている。この教育目標は「ディプロマ・ポリシー」に反映され、学生便覧や大学ホームページで明文化し、公表している。
- ②単位認定、卒業・修了要件については学則で定められており、適正に運用している。成績評価、進級条件、キャップ制、GPAの活用も「大阪人間科学大学 履修方法等に関する細則」「大阪人間科学大学 試験及び成績評価に関する規程」「大阪人間科学大学 試験内規」に定められており、適正に運用している。令和5年度においても5月8日（月）以降、新型コロナウイルス感染症の5類への変更に伴い、全学的な対面授業を実施していく中で、新たに導入した6時限目授業の適切な運用について、学生の授業外学修や自学自習時間の観点からも確認した。また、各学部・学科の教育課程で、それぞれの授業科目でどのような学修成果が得られるのかを示す「カリキュラムツリー」について、令和6年度の新学科設置や既設学科の教育課程改正に伴う見直しを行い、学修成果とディプロマ・ポリシーとの関連をより明確にした。
- ③IR情報の活用の取組としては、前後期の成績発表時に年次別、学科別のGPA分布図の公表を行い、学生が全体の中で自分自身の位置づけが確認できるように学修状況の可視化を継続して実施した。令和6年度の新学部改組及び既存学科の学修成果に基づくカリキュラムツリーの新たな活用方法として、成績評価をもとにした学修度の可視化に向けて、カリキュラムマップ、履修モデル、GPA分布一覧・成績評価等の個別データを含めて学生が活用できる一元化したシステムについて検討した。

◆自己点検評価結果のエビデンス（※以下は例示項目）

1. 3学部と各学科・専攻の3ポリシー
2. 大阪人間科学大学 履修方法等に関する細則
3. 大阪人間科学大学 試験及び成績評価に関する規程
4. 大阪人間科学大学 試験内規
5. GPA分布状況表

◆自己点検評価結果における課題と対応

カリキュラムツリーを活用し、各学科においてルーブリックが作成され令和6年度から学修成果の可視化に取り組む中で、教務委員会としても成績評価による学修到達度が可視化できるシステムの検討を進める。

基準Ⅲ-3	ディプロマ・ポリシーにおける評価・点検（キャリア開発委員会）
-------	--------------------------------

◆評価基準

- ① ディプロマ・ポリシーが明文化され、公表されている
- ② ディプロマ・ポリシーに適している社会との接続が実施されている

◆自己点検評価（該当数字を○で囲む）

- ①：基準を全て満たしている
- 2：基準を概ね満たしている
- 3：基準を満たしていない

◆自己点検評価結果の理由

- ①について大学 HP、大学案内等に公開し、周知を図っている。また学生には新入生対象のイベントやオリエンテーション等の行事を通じて説明している。
- ②については、各学科・専攻の学びや専門性を活かした進路選択をする学生の割合が高く、社会に必要とされる人材を輩出していると言える。

◆自己点検評価結果のエビデンス（※以下は例示項目）

1. 令和5年度卒業生就職率 98%
2. 令和5年度就職者専門職化率 社会福祉学科：88%、医療福祉学科視能訓練専攻：100% 子ども教育学科：84%、理学療法学科：100%、作業療法学科：100%言語聴覚専攻：100%、 ※専門職化率＝就職者のうち、資格を活かし専門職として就職した者の割合
3. 令和5年度国家試験合格率 令和6年3月卒業生の各国家試験の合格率は以下のとおりである。 社会福祉士：64.4% (58.1%、76.8%)、精神保健福祉士：85.7% (70.4%、82.5%) 介護福祉士：100% (82.8%、82.8%)、視能訓練士：100% (95.2%、97.8%) 理学療法士：97.6% (89.3%、95.3%)、作業療法士：100% (84.4%、91.6%) 言語聴覚士：92.9% (72.4%、89.0%)、 ※カッコ内は 前：全国平均合格率、後：4大新卒平均合格率

◆自己点検評価結果における課題と対応

エビデンス1の通り98%と高い就職率となったものの、就職を希望しない、或いは働くということに不安を抱える学生が増加している実感がある。早い段階から就業意欲を醸成させる取り組み、例えばインターシップや社会参加型授業等が必要だと感じている。

エビデンス2の専門職化率は各学科とも高い割合を維持しているが、実習のしんどさ等から専門職を回避する学生も存在する。進路選択は学生の自由ではあるが、本学での学びが社会において必要とされているものであることを改めて学生に認識してもらうことを考えるべきではないだろうか。

エビデンス3の国家試験合格率については受験者の母数を引き上げること、安定して高い合格率を維持するためのメソッド確立について引き続き取り組んでいく。

令和5年度
外部評価報告書

令和6（2024）年9月
大阪人間科学大学

外部評価委員

氏 名	職 名
わかさ 孝太郎 若狭 孝太郎	摂津市教育委員会 教育長

外部評価議事要旨

日 時：令和 6 年 9 月 24 日（火）15:30~16:20

場 所：摂津市役所 教育長室

出席者：

（評価員）若狭委員

（本 学）井上学長

山田大学事務局長

藤田大学事務局次長

1.令和 5 年度自己点検評価について

山田大学事務局長から資料に基づき自己点検評価についての説明が行われ、意見交換の後、若狭委員から、「細かなところにまで、学修者本位の教育が進められるよう配慮がなされている」との感想が述べられた上で、「大学において、必要な自己点検評価が行われており、妥当である」との外部評価を受けた。

以上